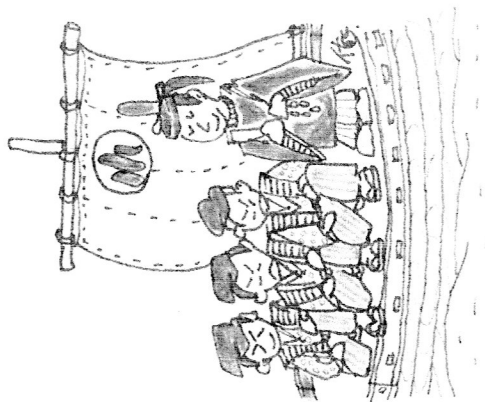


小豆島は、古くは応神天皇の行幸が記録に残っておりますが、良質な塩の産地であり、元寇以降は軍事上の要衝地として山城やのろし台が置かれた天領地でした。島であることから情報が漏れないため、京都御所や行政府からの信頼が厚く、他国との外交交渉や藩の取り潰し、国替えなど、一般他藩には要請ができない内容か、あるいは知られたくない事情がある時に、御用船と人材を出す場合が多かったようです。



宮内庁でも皇族が讃岐香川を訪れた際は、習慣的に小豆島に立ち寄る行程を組むようで、戦後島を訪れた事のある皇族は、昭和天皇・皇后・平成上皇・美

智子上皇后・徳仁今上天皇・雅子皇后・秋篠宮様・紀子様ご夫妻を始め、秩父宮様・高松宮様・常陸宮様・高円宮様ご夫妻など多くの皇族が居られます。

特に昭和天皇の妹君厚子様は岡山藩主池田家十六代当主の池田隆政氏に嫁がれた関係で小豆島にはお忍びを含めて何度も来られたようです。

全国の市町村の中で定例の皇室行事に関係なくこれほど多くの皇族が訪れた所は他にありません。特に歴史の表舞台に出たこともない地味な存在であつても、天皇家にとって小豆島は、二千年の間忠実に仕え続けた信頼できる天領地なのです。